

★第七日目が土曜日の理由

次に聖書以外の歴史的な証拠を少し調べてみましょう。聖書では日に特別な名前はなく、第1、第2……と数で呼んでいて第6日は準備の日、第7日は安息日と呼んでいました。日月火水木金土という名前は、**古代バビロンの占星術**から起こったものと思われまます。その当時、太陽系の惑星の中でよく知られていたのは、土星、木星、火星、太陽、金星、水星、月で、これらは世界を支配する神々であると考えられていました。1日24時間、1時間ごとに順番に支配し、その日の第1時間を支配する神はその日の主であると考えられました。そして、その惑星の名前をその日の名前としたのです。一般的な順序は、土星が最高位で、土木火日金水月の順序でした。

そこで、今、土星が一日の第1時間にあたっている日と考えると、この日の24時間は、(1)土、(2)木、(3)火、(4)日、(5)金……(23)木、(24)火となり、その次の日の第1時間は太陽(日)の支配する時間となり、その日は太陽の日となります。これを繰り返していくと、土日月火水木金という週の曜日の順序が出てきます。

聖書の第7日が、この占星術からきた土曜日にあたることは、いろいろな歴史的文献が示しています。その二、三を挙げてみましょう。

★安息日を土曜から日曜日に変えたカトリック教会

また安息日は神のため、人のために奉仕をする日です。そして安息日を守ることは、神の民のしるしであると教えられています。

「しかしキリスト教の礼拝日は日曜ではありませんか」と言われる方がおられるかもしれませんが、事実、現在では多くのクリスチャンは日曜日を守っています。日曜日を特別な日とするさまざまな神学的理由が挙げられていますが、聖書的な根拠はありません。

カトリック教会の機関紙のひとつ、「カトリック・ミラー」1893年9月23日号には、「カトリック教会はプロテスタントが存在する1000年も前に、安息日を土曜日から日曜日に変更した」と書かれています。教会歴史を調べればそれが事実であることがわかります。またカトリック教会の教理問答は、聖書の安息日が土曜日であることを認めた上で、カトリック教会が教会の権威によってこれを変更し、日曜日にしたことを述べています。

聖書は「人間に従うよりは、神に従うべきである」(使徒行伝5章29節)と教えています。神が選んだ安息日と人間が選んだ日曜日、私たちはどちらを守るべきでしょうか。最終の時代において、これは神の民に対する忠誠の試金石となります。